

# 新宿区教育委員会会議録

## 平成十六年第三回臨時会

平成十六年六月二十三日  
新宿区役所六階第三委員会室

# 新宿区教育委員会

《平成十六年第三回臨時会》

日時 平成十六年六月二十三日（水）

場所 新宿区役所六階第三委員会室

出席者

新宿区教育委員会

委	員	長	木	島	富	士	雄
委		員	櫻	井	美	紀	子
教	育	長	山	崎	輝	雄	

説明のため出席した者

次					長	今	野	隆
教	育	政	策	課	長	吉	田	悦
教	育	指	導	課	長	木	下	川
学	校	運	営	課	長	濱	田	幸
教	育	環	境	整	備	課	長	木
生	涯	学	習	振	興	課	長	赤
								羽
								憲
								子

書記

教	育	政	策	課	管	理	係	長	久	澄	聰	志	
教	育	政	策	課	管	理	係	主	査	田	中	義	一

《 議 事 日 程 》

報 告

- 一 五歳男児の転落事件について（教育委員会事務局次長）

木島委員長

それでは、ただいまから、平成十六年新宿区教育委員会第三回臨時会を開会いたします。本日の会議には熊谷委員及び内藤委員が欠席しておりますが、定足数を満たしています。本日の会議の署名者は、櫻井委員にお願いいたします。

## 報告事項

## 報告一 五歳男児の転落事件について

木島委員長

本日は、五歳男児の転落事件についての緊急の報告のため、臨時会を急遽招集させていただきました。

それでは、事務局より報告を受けます。

次長

お忙しいところ、急遽お集まりいただきましてありがとうございます。

今、委員長がおっしゃったとおり、もう新聞報道、あとテレビのニュースでも何回も報道されておりますので、ニュースには接していらっしゃるかと思えますけれども、昨日午後四時四十分ごろということですが、高田馬場四丁目の東京都の住宅供給公社のマンションの外階段、四階から五階に上がる踊り場のところから、五歳の男児が投げ落とされるという衝撃的な事件が起きまして、きょうの午前四時四十五分ということですが、容疑者といたしまして新宿区立の中学校の二年生女子生徒が補導されるという、そういう情報が入りました。

教育委員会といたしましても、私ども事務局といたしましても、でき得る限りの情報収集には努めております。実態としては、かなり状況を把握しつつございます。ただ、午前中も捜査当局、警視庁戸塚警察署でございますけれども、問い合わせ等もいたしましたが、公式にはどこの中学校のだれというような情報に接しておりません。現段階では区立中学校の二年の女子生徒ということですが、まだ断定するには至っていないわけですが、状況的に推定はいたしているところでございます。

教育委員会といたしましては、お手元に教育長のコメントもございまして、日ごろから命を尊重する心をはぐくむ、あと社会のモラル、人間性を備えた社会人に成長できるように、学校教育活動のさまざまな機会をとらえまして、児童・生徒には指導というか、そういうことを教えているわけですが、こういう事件が起こりますと、決してそ

の辺のことに怠慢であったというふうには思っていないわけですが、なお一層、欠けていた部分の検証とか、そういったことを従前以上にやっていかなければいけないのかなというふうに考えてございます。

具体的に断定していない以上、具体的な中身についてなかなか申し上げづらいわけですが、今後も事件の詳細な情報、あるいはその生徒をめぐる環境、子供たちの心のケア、それと保護者や地域に対する説明責任等、これから果たしていかなければならないことがいろいろございまして、本日もこの教育委員会に先立ちまして、全小中学校の校園長を招集いたしましたして、教育長の方からもその旨お話をさせていただきました。いずれにしても、よく言われる言葉ではございますけれども、再びこういう事件が起きないようにということで、私どもも一層気を引き締めて対応に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

事件の概要説明になるかどうかわかりませんが、以上でございます。

木島委員長

説明が終わりました。報告一について御質疑のある方、どうぞ。

これは当然、区の小中学校、幼稚園の校長会で御説明されたということですが、当然の話、各校の保護者の方々がやはり一番心配すると思うので、ぜひやはりそちらの方に、各学校から、家庭教育、またはお子さんたちの、これから特に夏休みにかけて、やはり一番大切なことですから、そこいら辺を十分に徹底していただくというほか、ベストな方法はなかなかないんじゃないかという気がいたしますし、やはり新宿区というところの特性もあると思うんですね。やはり歌舞伎町もあるでしょうし、歓楽街も多いですし、子供たちの誘惑も非常に多いところですから、そこら辺もあわせて、地域教育と言ったら失礼ですが、地域のいわゆる御協力を十分に仰がないと、やはり私たちだけで、また警察だけでとやかくできる問題ではないというふうに感じますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

次長

午前中、十一時半から、実はマスコミ関係、報道関係の記者会見がございまして、断定できないということで、具体的な事実関係とか、そういったことには触れてございませんけれども、実はマスコミ関係も含めまして、かなりの程度推定はされているわけですが、地域の方でも、それなりに割とよく知られている生徒であったというようなことも聞いております。その辺、どの時点で断定して具体的な話ができるかという時期の問題はございますけれども、いずれにいたしましても、その辺の状況を含めて、各学校、それと教育委員会一体となりまして、保護者や地域の不安というか、その辺のことを払拭できるような、そうい

櫻井委員

うふうにできればいいなというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今回は、落とされた坊やが命に別状ないということで、それが本当に何よりだと思ひますけれども、このことに関してはそれでも、そういう学校への通達なりPTAへの通達ということでもいいと思ひますけれども、この前からの諫早の事件ではないですけれども、それだけじゃなくて、もう今は水面下にいっぱいそういった予備軍というか、芽があると思ひますね。我々、そんないばって言えることじゃないんですが、私だって小さいころに、ひとりっ子ですけれども、年下の子供と遊んでいると、からかいたくなるし、ちょっといじめたくなるというふうに、何か子供の悪い本能だと思ひますよね。そういうものはだれでも持っているし、昔いつでもあったと思ひますけれども、今はそれがすぐ殺すとか、命を奪うとか、そういうことにつながっちゃって、それというの、よく言われるようにテレビの影響だとかありますし、もちろん今まではテレビの弊害が言われてきたわけですが、今度からはインターネットも、子供が自由にパソコンもさわられるようになり、それから携帯でいろいろなことができるようになり、そういう時代に急にバタバタとなってきたわけ、それをどういうふうに扱うかという、ハードがどんどん発展してきちゃって、それに伴うソフトの心の部分というのが、追っかけていっているんだけど、まだ追いつかないと思ひますよね。ですから、子供の世界も物すごく広がってと言うと聞こえはいいですが、し放題になってきているような気がする、それは子供の責任ではないと思ひます。やはりそれを広げた大人の責任であるわけですし、そういうことですね。

だから、家庭ではもちろんそうなんですけれども、学校でもクラスでも、先生方が事あるごとに知識の学習も結構ですけれども、こういった社会現象というか、そういうものに折に触れてそれを話題にして、どういうふうに考えるとか、君ならどうするとか、そういったことを常に自分たちの問題としていつも会話の中に入れていただくと、少しは違うのかなって、そういう必要もあるかなと。だから、今までのように学問だけを教える学校ではなくて、何か違ったものも求められてくる時代になってきたわけですから、学習指導状態、指導方針も柔軟にそれに対応すべきではないかなと、事あるごとに思ひますけれども。

教育指導課長

このたび、この該当の加害生徒と思われる状況を教育委員会として調査してまいりました。まだ特定できない段階がございますので、細かいことには触れられませんが、小学校での経過、それ以前の幼児期の経過、そして中学校籍がある段階でのこのお子さんの生活状況を考

えて、各学校は、その時々極めて適切な対応をして、関係諸機関と連携をとりながら、この子供の指導、援助に当たっていた姿がわかります。しかしながら、にもかかわらず、そして、教育委員会も随時報告を受けて、学校、あるいは担任を指導、援助してまいりました。関係機関もかなりの努力をして援助していただいている記録がございます。にもかかわらず、今、櫻井委員の御指摘のように、こうした事件が起きたということについては、その指導の足りない部分を十分に反省して、なおかつ何が足らなかったのか、もう一度謙虚に見直すことが必要だと考えております。

教育委員会としましては、今回、幸いに被害に遭われたお子様のお命に別状がないということは大変な救いでございますけれども、今回のことを十分な反省材料として、これまでの指導を見直す。その見直すことも、いわゆる義理というか、形だけで見直しをしていくということではなくて、当然各学校の校園長に見直しをしていただくとともに、本当に何が足らなかったのかということをはっきりと明らかにしてまいりませんと、安心して児童・生徒も学校で勉学にいそしむということができないでしょうし、区民の皆様にも期待にこたえられるとは思っておりませんので、早急に検討しながら、関係者とよく助言を得ながら、今回のやみの部分について、あるいはもっと何かしかるべき方策がとれなかったかについて検証して報告してまいりたいと思っておりますので、御理解を賜りたいと思っております。

木島委員長

今、櫻井委員が言われたように、今回はたまたま新宿区で起こった問題ですけれども、佐世保の事件もそうですし、非常に最近、携帯での事件も多いですし、その便利さはわかるんですけれども、その正しい使い方というのが、まだお互いに暗中模索だろうと思うんですね。私たち、例えば私なんかは医学の世界でも、物すごい進歩をしてきているわけです。そうしますと、全く体の中を外から見ていて、立体的に中をのぞけるような時代になっているわけです。そうすると、今までの医療というものがそこで物すごく変わってくるわけですね。それと同じように、やはり世の中、急に子供たちにこういうような便利な、また自分たちが想像もしなかったようなことを自分ができるということ、それは親の私たちが知るよりも、子供たちの方が早いわけですね。そこら辺のところというのは、やはり教育ということ、いわゆる指導要綱とか、そういうものを見ていると、とてもそういう問題に対しての対応のところまでは至っていないように思えるんですね。

そうすると、これからやはり本当に家庭の教育、それと、幾ら家庭教育といっても、親と子供で話をしていても、どう対応していいのかという問題が、そこでわからないという親が

ほとんどだろうと思いますし、やはりそういうものを一度、こういう教育委員会等で専門的に委員会なり何なりで持ち寄って話し合うような機関ができないと、こういう事件というのは次から次へと起こると思うんですね。

子供たちにしてみると、死というものが昔と違って、例えば昔はおじいさん、おばあさんが自分の家で死ぬことによって、それをずっと死ぬ間際まで孫として見ていながら、死というものが何だろうかということがわかってきたわけですがけれども、今はもう亡くなる時というのは、自宅で亡くなるのはほとんどいないものですから、死というものがわかっていない。だから、ただテレビとかゲームの中で人がパタンと倒れるのが死だけで、やがてそれがまた起き上がって普通に戻っちゃうという感覚でしかないわけですから、本当に自分がしたことが悪いとかいいとかという感覚がないんだらうと思うんですねけれども、それに対してどう教育していったらいいのかというのは、これはこちらだけじゃなくて、日本全国がわからないことだらうと思うんですね。だから、やはりこれを契機に、やはりいい方向に持っていかないといけないんじゃないかなと思いますけれども、全く私、櫻井委員のおっしゃった、そういうことがやはり問題だらうなと思いますね。

櫻井委員

これは、今、そこはかとなく伝わることによりますと、問題を抱えていた女子中学生で、小さいときからそういう経緯をたどっているお子さんだということがわかりますけれども、これはそうかもわかりませんが、事件に至らないまでも、今言われているごく普通の子供が考えも及ばないようなことをしてしまうという時代ですので、この子はみんなが注目していたからということではなくて、やはり未然に防がなくてはいけないですし、防ぐ、防がないというよりも、何かみんなそういうものをどこかに持って、芽はあると思うんですね。それが怖いので、大人の方は万全を期していますと、それから、きついことを言うのですよ、やることはやっていますということなんですけれども、言いわけはそれできくと思うんですけれども、本当に子供の側は、どういうふうに、日ごろどういうことを感じて、どういうことをやっているのかという、本当に子供の側に立った、子供の心理というものをもっともっと理解するチャンスというのは欲しいような気がするんですね。

教育指導課長

今、御指摘のとおりだと私も思います。特に櫻井委員が、御幼少の御経験までお話しなされてということは、すべての人間に同じようないろいろな芽があると。実はまさしくそのとおりでございまして、教育の立場で、特に学校教育の立場で考えるならば、一言で言えば児童・生徒理解の方法が不十分であったということに尽きると思っております。決して言いわ



けでも何でもありませんが、本当に現場の先生たちは誠実に対応していたというふうに思いますが、先ほどの校園長会でも、であったとしても、でも今回の事件が起きたということについては、やはり反省すべき点が多々ある。その第一は、いわゆる子供に対する理解がまだまだ、これだけ激変している社会の中で教師が、あるいは親が十分その尺度や能力を身につけていなかったということでございますので、その方向について十分な研究をしていくことが必要だと思いますし、それは決して教育委員会だけでできるとは思っておりませんので、内外の識者の方々の御協力もいただきながらやっていかなければいけないと思っておりますし、その取りまとめというか、コーディネーターは当然教育委員会にあると思っておりますので、またその辺の部分での御尽力も賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

木島委員長

いろいろ本当にあると思うんですね。例えば、人間の中には、当然の話、抑制機能といわゆる欲望というんですかね。しようということと、それを抑えるという両方がバランスがとれているから健全な精神が育っていくわけですけれども、それはもう心の中でやってみたいという気持ちもあるでしょうし、それを抑えるのが正常なんですけれども、ところが、やはり基本的には、こういう問題が非常に多くなってくるというのは、やはり少子化が基本にあるんだろうと思うんですよ。人間、生まれたときに母親の顔を見るということが子供の最初でしょうけれども、結局育っていく過程で、今の子供たちというのは非常にかわいそうだと思うのは、自分が対象にする仲間が少ないんですね。兄弟がいない。そうすると、兄弟がいなかったら、一番最初に接するのは大人なんですね、両親なんですね。そうすると、子供が両親と付き合いがなければいけない。そこにもう無理が生じちゃうんですね。だから、俗にいう長女だとか長男という性格が、ほかの二番目、三番目の子供たちとちょっと違うというのは、そういうところから生じてくるんだろうと思います。

ですから、こういう問題を考えたときに、精神医学だとか、そういうところを一生懸命やっている学者さんがよく出てくるんですが、やはり僕は、一番大事なのは児童心理学というんですか、児童のいわゆる意見が、私たちの時代、つまり兄弟たちが多かった時代の子供たちの精神的な構造と、今の少子化になった子供たちの精神構造というのは物すごく違うと思うんですね。だから、そこいら辺のところも、やはりしっかり聞いておいて参考にしないと、幾ら学校で一生懸命やっても、親がどう対応しようとしても、今の子供たちの心理というのは非常に違ってきているんじゃないか。そういう感じがしますね。それがませているとか、

そういう言葉で俗に言われるんでしょうけれども、そうじゃないと思うんです。彼らの心の中には、例えば昔は非常に生徒が多いですから、ナイフで鉛筆を削って手を切ったり何かして痛いとかということを知るわけですね。血が出るということは大変だということを知るけれども、今は人数が少ないから、親が大事にするから、けがさせないように、熱い思いをさせないように、そういう形で親がかわりにしてしまうから、子供は何もしないというような状態が現実にあちこちで見られるわけですから、だから、やはり随分昔と今の子供というのは違うんだろうという感じがいたしますけれども、そこら辺のところというのは、やはり学校の方でも、きちんとそういう専門家を呼んでお話を聞くとか、そういうチャンスはあったんでしょうか。

教育指導課長

心の教育を取り上げるということは、東京都の大きな課題でもありますので、それは校内研修とかをやっておりますし、また、御案内のように、中学校ではカウンセラーを各校一名ずつ配置しておりますし、新宿区でも小学校にも心理士を配置しておりますので、当然子供の心理面について受け皿としての学校が、教員が一人一人専門性を得るために、そうしたことを校内研修でやっていることはやっております。ただ、画一的に教育委員会としてそうした研修を必ず取り入れるようなということはございませんが、受け皿としていくためには、当然そうしたことをやっていきますし、数としてのデータは持っておりませんが、カウンセラーの方が講師となっていて、そうしたいわゆる子供の児童心理を含めた研修会をやっているというふうな報告は受けております。ただ、小学校に全部そのような形で配置されているというよりは、教育センターから三校ないし四校をかけもちで一週間に一遍程度行っていただいて、どちらかといえば課題が明らかになっている生徒を見取っていただいて、相談活動をしていただくというようなことが多いので、今お話というか、御指摘を聞いていても思ったことは、今後こうしたことが起きてからでは、甚だ泥縄のそしりは免れませんが、新宿においてはそういう専門のカウンセラー、心理士、それから目白大学等もいろいろな連携をしておりますので、もっと積極的にそうしたことを悉皆的な研究として取り入れていく必要性を、今の御指摘の中からも十分感じております。

櫻井委員

もう一つは、例えばこういう事件、それから、さっき諫早と言ったけれども佐世保でしたね。ああいうショッキングな事件というものがあつたときは、子供たちにはそれは知らさない。これは特に区内ですから、身内と言えは身内ですよ。そうした場合は隠すものなんでしょう。それともオープンに、知る者は知ってしまうというような感じだけなんでしょう。

教育指導課長

か。

それは、学校現場ではオープンにしていくことを原則で取り組んでおります。と申しますのは、つい直近の学校訪問を教育長と私、二人で、八時に庁舎を出まして、八時十分、十五分ぐらいには各小中学校を回っているところなのですが、先日行った中学校では、二年生で、佐世保の事件の新聞記事を中心にしながら、命の尊厳についての道徳授業を見てきたところですので。ですから、いろいろな形で、そうしたものをを行う時期というのは、时期的判断というのは学校現場が一番子供の実態に応じてやる場所ですが、多くの学校が自主的に工夫をして、尊厳について行っておりますし、区内においても、佐世保の事件を教材として命の教育も扱っておりました。ただ、今回の昨夕起きた事件が、果たして道徳の教材として、あるいは命の尊厳として、そのまま生の形でできるかと申しますと、加害生徒のお子さんの人権的な部分が、非常にデリケートな人権を複合的に抱えていますので、まして同じ新宿の中でということになると、扱いは極めて難しいと私は思っております。

櫻井委員

そうですね。佐世保でも、現場を見てしまった五年生か六年生の子が、もう心理的におかしくなったというニュースなんかもあるわけですから、余り身近だと、それはかえってトラウマになっていけないのかなと思うんですけども、例えばこのお話でしたら、五歳の子の立場になって、落ちたらどうだったんだろうとか、痛かったらどうだろうね、死んじゃったかもわからないのに死ななくて、それでもそのショックは大きいだろうねみたいな、そういう話し方もできるような気もするんですね。落とされたらどうなんだろう、落ちるときの気持ちってどうなんだろうみたいな、そういう逆から見ることできるかなというふうには思います。余り生々しいのは逆にマイナスになってしまのかなとは思いますが、そうやってチャンスをとらえて、そういう意味で、みんなの心の中にそういう考えるということ育ててくださるのはいいことだと思います。

木島委員長

ほかに何か御質問がなければ...。よろしいですか。

ほかに御質問がなければ、報告事項は以上で終了といたします。

閉

会

午後二時四十二分閉会

木島委員長

本日の教育委員会は以上で閉会といたします。